ハンガリー舞曲第５番　：　ブラームス（1833 年－1918 年）

「ハンガリー舞曲集」は 21 曲からなるピアノ連弾曲集です。1869 年の発表直後から大ヒットしました。当時のヨーロッパは「チャールダーシュ人気」で席巻されており、多くの作曲家が自分の作品に取り入れています。ブラームスもその一人といえます。この 19 世紀半ばは、ヨーロッパの家庭にピアノが普及し、楽器といえばピアノという時代でした。中でも 1 台の楽器で二人が楽しめる「連弾」は人気で、大ヒットしたもう一つの理由でもあったようです。

“チャールダーシュ”はハンガリーの民俗舞曲のひとつで、超絶技巧を誇る華やかなメロディーや小気味良い 2 拍子のリズムが特徴です。ブラームスは 20 歳頃、ハンガリーから亡命したヴァイオリニストのレメーニの奏でるチャールダーシュの旋律を聴いてそのとりこになり、110 冊ものチャールダーシュの楽譜を集めています。そして、何百にものぼるチャールダーシュの曲をいくつかの作品集から組み合わせて編曲し始め、21 曲からなる「ハンガリー舞曲集」を作りました。発表後、ブラームスに自分の曲を使われたチャールダーシュの作曲家たちから咎められましたが、彼はこの曲集を自分の「作曲」ではなく「編曲」と表記していたため無事に解決を見ています。ブラームス選りすぐりのチャールダーシュを集めた「ハンガリー舞曲集」は、代表曲のひとつとして世界中で愛されるようになりました。

「ハンガリー舞曲」の多くは既存のチャールダーシュを編曲したものですが、その編曲には、ブラームスが「素材の持ち味を壊さず」見事な手腕が光っているといわれます。例えば 2 つの原曲を組み合わせる際も、相性の良い 2 曲を選曲しています。「第 5 番」の場合、A：メロ=ケーレル作のピアノ曲、B：メロ=ボーグナー作の歌曲がそれぞれの原曲ですが、まったく違う作曲家の書いたチャールダーシュを合体させることで、それぞれの曲の良さを引き出しているようにさえ感じられます。時には原曲の長大なエンディングを大幅にカットして、まるっきり違う 3 つの音で曲を締めるという大胆な編曲も行っています。（「第 5 番」の最後の三音はブラームスのオリジナルによるものです）「ハンガリー舞曲集」は、チャールダーシュを愛し、研究し尽くしたブラームスならではの編曲なのです。

チャールダーシュ　：　ヴィットーリオ・モンティ（1868 年－1922 年）

元はマンドリンのために書かれた曲で、ヴァイオリンやピアノ向けに編曲したものがよく知られています。代表曲『チャールダーシュ』は有名ですが、作曲家としては無名に近かったようです。“チャールダーシュ”は、ゆったりとした「ラッセン」と、急速な「フリスカ」という２つの部分から構成されています。

ハンガリー語で”酒場”を意味する〝チャールダ“に由来していて、兵士が酒場で兵士募集のために踊り、それが農民たちの改作を経て徐々に広まり、19 世紀にはヨーロッパ中に大流行しました。ウィーン宮廷は、一時チャルダッシュ禁止の法律を公布したほどでした。

ツィゴイネルワイゼン　：　パブロ・デ・サラサーテ（1844 年－1908 年）

サラサーテは、大作曲家たちが競って名曲を捧げたヴィルトゥオーゾです。華麗な名人芸と、魔術的あるいは悪魔的とも言うべき妖しい音色と蠱惑的な歌い回しで聴く者を魅了しました。大作曲家たち（サンサーンス、チャイコフスキー、ブラームスなど）の創作意欲をも刺激し、数多くの名曲を生み出しました。「ツィゴイネルワイゼン」とは、ドイツ語で「ジプシーの歌」という意味であり、ここでもロマ（ジプシー）の芸術性が影響を与えています。

バラトン湖のさざ波　：　イエネー・フバイ（1858 年―1937 年）

この作曲者はハンガリー・ブダペスト生まれですが、ドイツ系ユダヤ人で正式にはオイゲン・フーバー（フーベル）といい、フランス語圏で生活していた頃から、好んで「マジャル風」の姓名を名乗るようになりました。ヴァイオリニストかつ作曲家かつ音楽教師であり、その協奏曲はハンガリーの民族色が濃厚なものになっています。

バラトン湖は、海のない国ハンガリーではこの大きな湖のことを「マジャール・テンガー」「ハンガリーの海」と呼んでいます。東西に細長いので、場所によっては幅が狭くて対岸が見える所もありますが、小さな波もあり、水が淡いエメラルドグリーンに白を混ぜたような不思議な色をしていて、まるで静かな海のように親しまれているそうです。ハンガリー随一の景勝地であり、その様子を謡ったものになっています。

ひ ば り　：　グリゴラシュ・ディニク（1889 年－1949 年）

グリゴラシュ・ディニクは、ルーマニアのロマ(ジプシー)の作曲家、ヴァイオリニストであり、ヴィルトゥオーソ的なヴァイオリンの小品として頻繁に演奏される「ホラ・スタッカート」の作曲者です。他のポピュラーな曲として「ひばり」があります。しかし、ヒバリに限らず、カッコウとかウグイスのようなものとか、いろいろな鳥の鳴きまねをするのが、この曲の聴かせどころとなっています。

黒 い 瞳　：　ロシア民謡

タイトルの「黒い瞳」という言葉はここではロマ（ジプシー）の女性の煽情的な魅力の象徴として用いられており、その魅力に取り憑かれた男性の苦悩と激情がこの歌の主題なっています。旋律も、ロマの音楽に特徴的なハンガリー音階に基づいており、ロシアのジプシー歌謡を代表する曲として親しまれています。

「黒い瞳」は初め 1843 年に詩として発表されました。作者はウクライナの作家であり、わずかにロマンティシズムの香りが漂うだけの簡素なものでした。この詩が最初に歌曲として発表されたのは、1884 年でありロシア化したドイツ人によるものでした。この有名なロシアのジプシー歌謡は、実際にはウクライナ人とドイツ生まれのロシア人によって作られたことになります。そして、この歌を世界的に有名にしたのは、バス歌手のフョードル・シャリアピンであると言えます。シャリアピンはこの歌に自ら詩を書き足してレパートリーに加え、革命後の 1922 年に世界各地の公演で披露しました。これにより「黒い瞳」は、世界で最も有名なロシアの歌の一つとなったのです。

ジプシー民謡

ロマ（ジプシー）は、生活の場を求め複数の経路でインド方面からヨーロッパへ移動してきたと考えられています。南方を経由しながら、はるか北上してロシアにたどり着いた人々、あるいはロシアより温暖な気候を求めて南下してきた人々。いずれにしても、ネイティブな感性を基本にしながら、その地の文化を融合吸収して独特な文化を築いてきました。

はるか遠い過去の歴史を思い計りながら、その旋律を楽しみましょう。